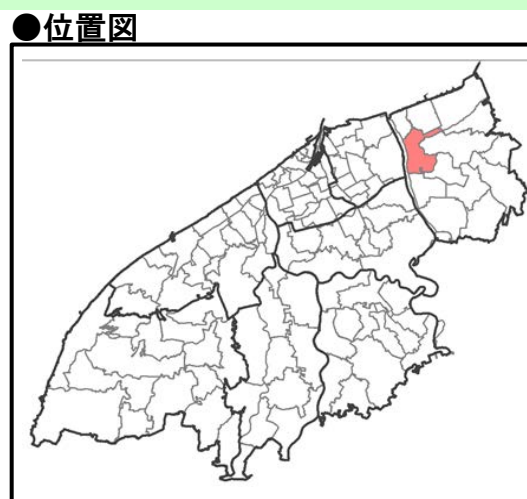


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

すみれ野1~3丁目	
つくし野1・2丁目	
名目所	
名目所1~3丁目	
新崎	
新崎1~3丁目	
濁川	
濁川1丁目	
西名目所	
松潟	
松栄町	
松浜東町2丁目	



●施設・団体

市役所・区役所等	濁川連絡所
警察・消防	—
消防団	北方面隊 濁川分団・松浜分団・南浜分団
水防倉庫	濁川
一時避難場所	つくし野東公園、つくし野西公園、すみれ野公園
広域避難場所	濁川公園
主な 用要 施設 配慮 者	幼稚園・保育園 にぎりかわ保育園
	高齢者 福祉施設 愛宕の園
	障がい者 福祉施設 障がい者就労支援センタードリーム、松潟の園

●人口

総人口	9,331人	地区の割合	市の割合
0~4歳	375人	4.0%	4.0%
5~14歳	717人	7.7%	8.5%
15~74歳	7,277人	78.0%	74.6%
75歳~	962人	10.3%	12.9%
65歳以上人口	2,172人	23.3%	26.0%
世帯数	3,579世帯		
一世帯あたり人口	2.6人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	1,275人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	8,975人	夜間の96.2%	

●建物関連指標

総棟数	4,331棟	地区の割合	市の割合	
木造	S55年以前建築	1,289棟	29.8%	44.2%
	S56年以降建築	2,224棟	51.3%	46.7%
	計	3,513棟	81.1%	90.9%
非木造	S55年以前建築	204棟	4.7%	3.4%
	S56年以降建築	614棟	14.2%	5.7%
	計	818棟	18.9%	9.1%
S56年以降建築物	2,838棟	65.5%	52.4%	

S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震  
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高(m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]濁川小学校	1.4	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]濁川中学校	2.2	4	○	—	全階可	—
[ヒ]北地区コミュニティセンター	1.9	2	○	—	2階以上	○

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

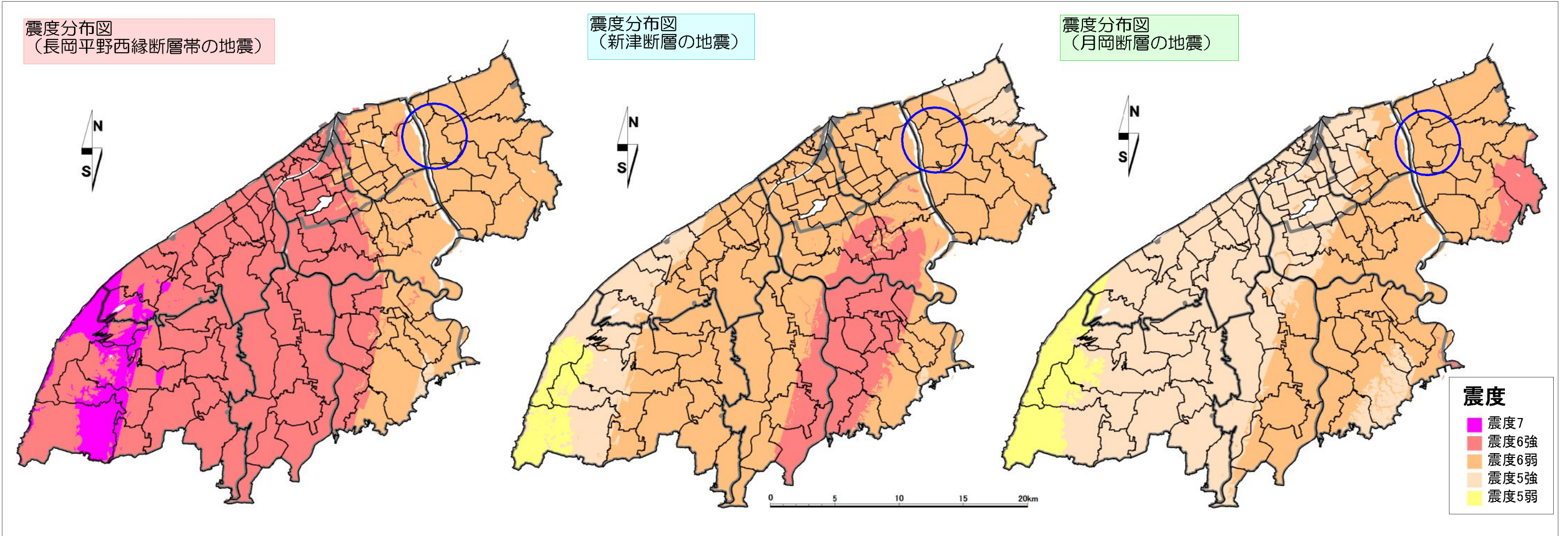
施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高(m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]早通コミュニティセンター	1.8	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]早通児童センター	1.6	1	○	—	×	—
[ヒ]早通南保育園	1.4	2	○	—	2階以上	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、避難可能な階数を、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が阿賀野川右岸の軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には強い揺れや液状化の可能性があり、津波による浸水は、阿賀野川の沿いの低地で想定されている。
水害・土砂	阿賀野川の洪水及び新井郷川・新発田川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、阿賀野川の洪水では、地区の大部分が浸水する可能性がある。





	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

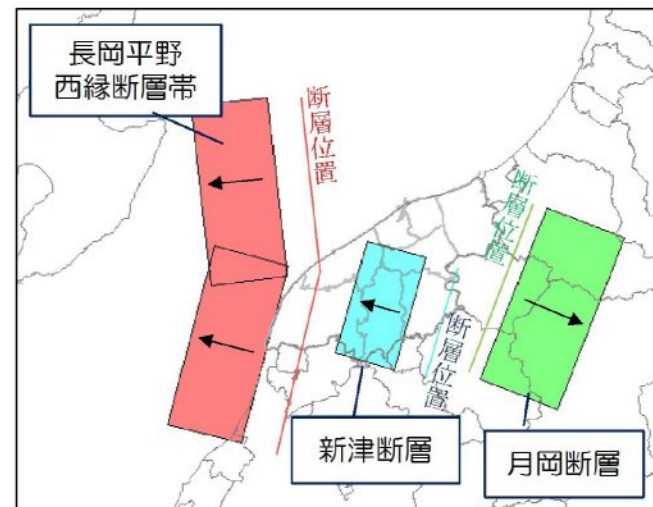
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

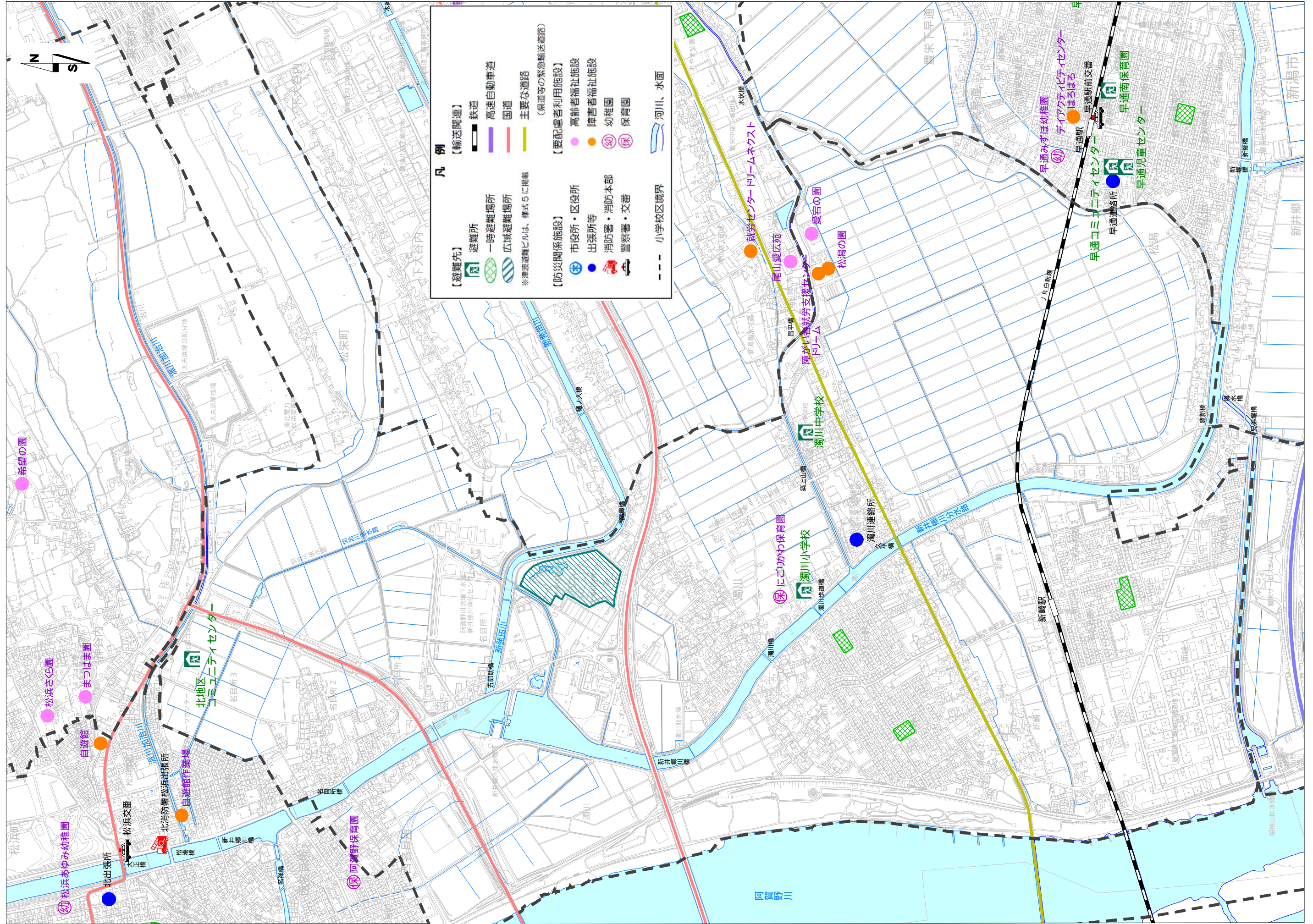
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。





[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)



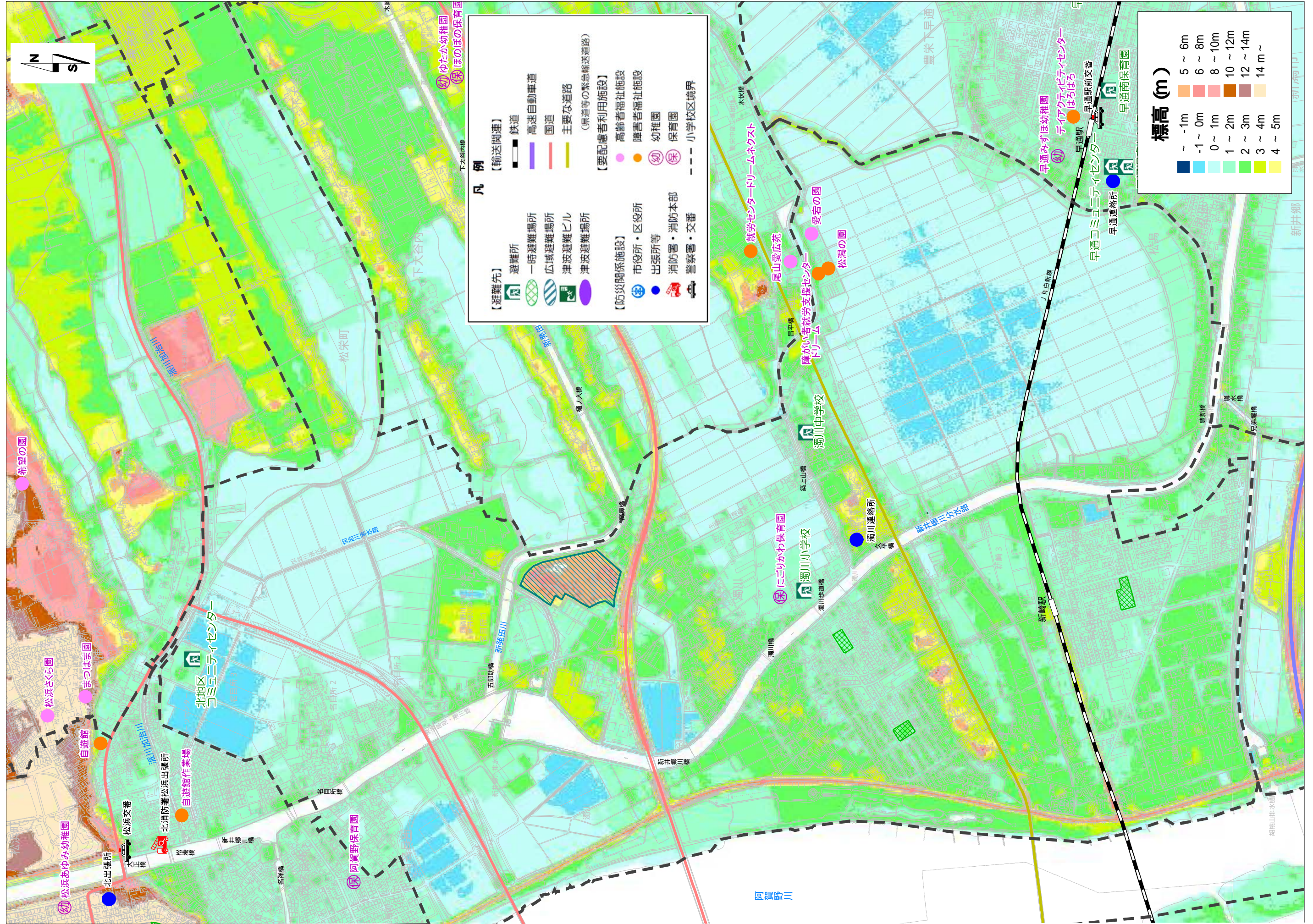






様式5 標高分布図

濁川小学校区



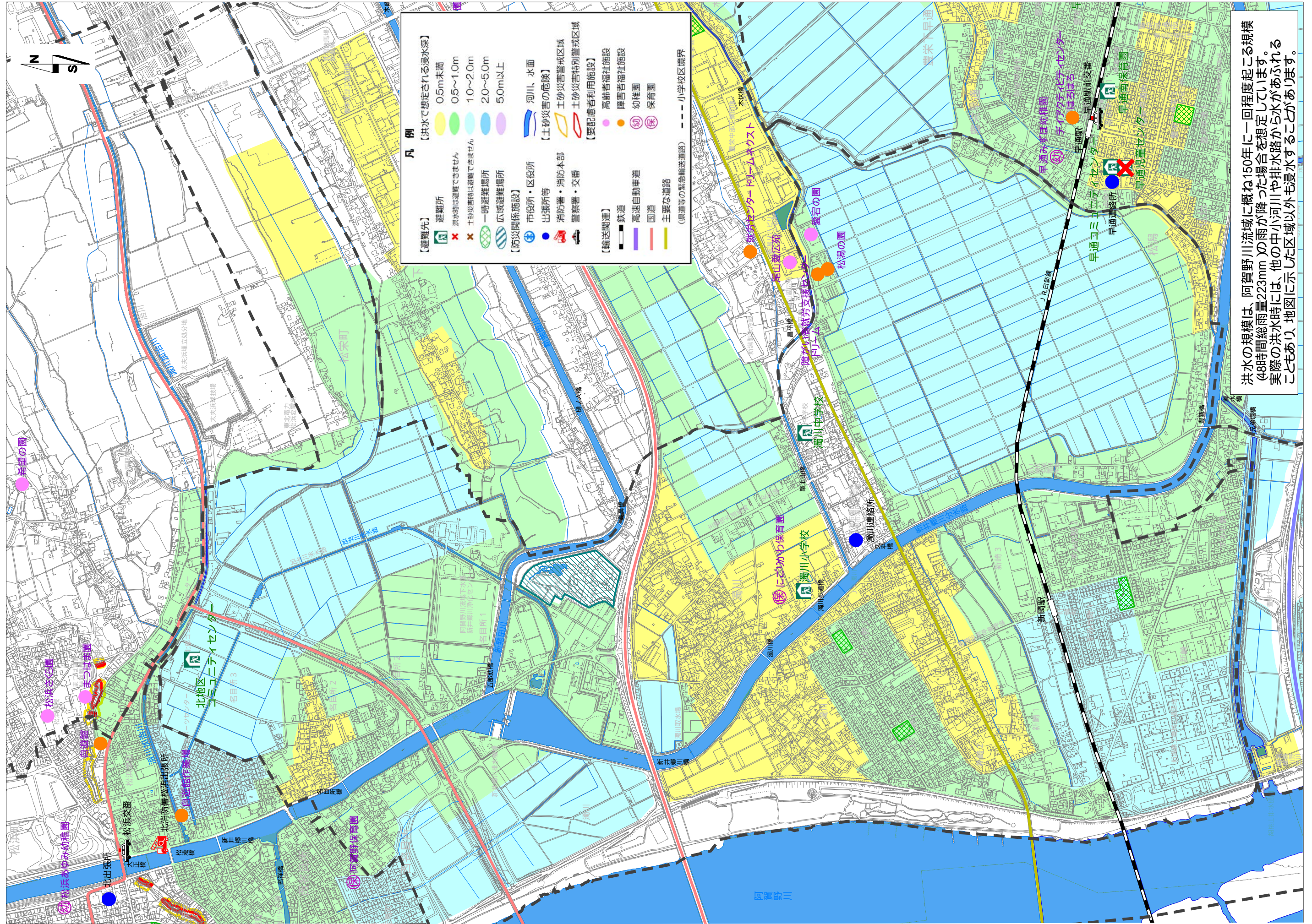
[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)





様式6-1 風水害 (洪水・土砂災害) 対策地図 (阿賀野川)

濁川小学校区



**凡例**

【避難先】

- 避難所 (避難所)
- 洪水時は避難できません (洪水時は避難できません)
- 土砂災害時は避難できません (土砂災害時は避難できません)
- 一時避難場所 (一時避難場所)
- 広域避難場所 (広域避難場所)
- 防災関係施設 (防災関係施設)
- 市役所・区役所 (市役所・区役所)
- 出張所等 (出張所等)
- 消防署・消防本部 (消防署・消防本部)
- 警察署・交番 (警察署・交番)

【土砂災害の危険】

- 河川、水面 (河川、水面)
- 土砂災害警戒区域 (土砂災害警戒区域)
- 土砂災害特別警戒区域 (土砂災害特別警戒区域)

【要配慮者利用施設】

- 高齢者福祉施設 (高齢者福祉施設)
- 障害者福祉施設 (障害者福祉施設)
- 幼稚園 (幼稚園)
- 保育園 (保育園)

【輸送関連】

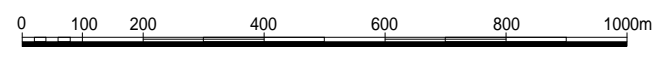
- 鉄道 (鉄道)
- 高速自動車道 (高速自動車道)
- 国道 (国道)
- 主要な道路 (主要な道路)
- (県道等の緊急輸送道路) (県道等の緊急輸送道路)
- 小学校区境界 (--- 小学校区境界)

【洪水で想定される浸水深】

- 0.5m未満 (0.5m未満)
- 0.5~1.0m (0.5~1.0m)
- 1.0~2.0m (1.0~2.0m)
- 2.0~5.0m (2.0~5.0m)
- 5.0m以上 (5.0m以上)

洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量223mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

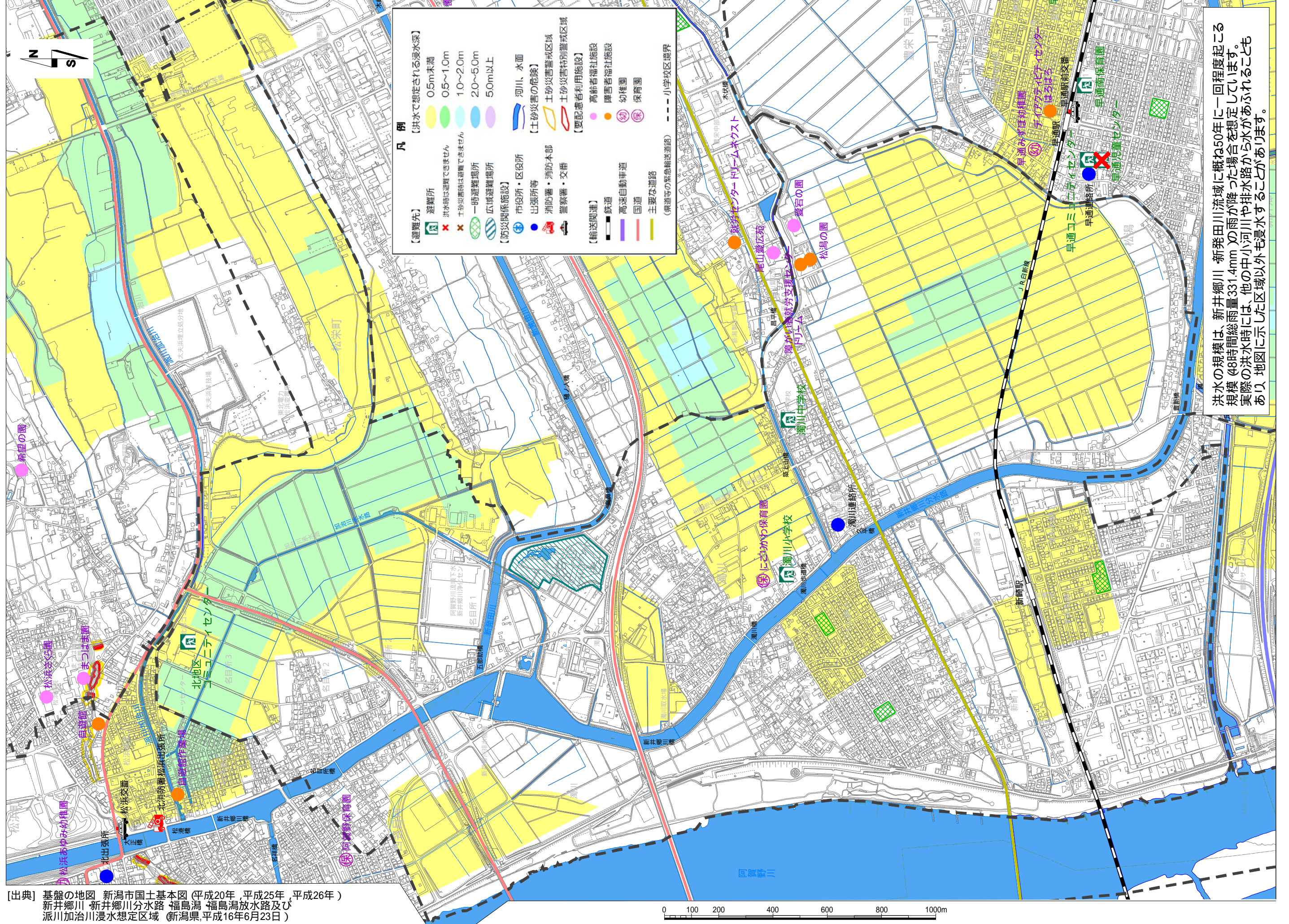
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 阿賀野川浸水想定区域 (国土交通省, 平成14年1月31日)





様式 6 - 2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川）

濁川小学校区



洪水の規模は、新井郷川 新発田川流域に概ね50年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量331.4mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年、平成25年、平成26年)  
 新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川浸水想定区域 (新潟県、平成16年6月23日)